



## 産業廃棄物処理計画書

企局行第273-2号

令和5年7月4日

埼玉県知事 大野 元裕 様

提出者

住 所 埼玉県行田市小針1632

氏 名 埼玉県行田浄水場長 加藤 政寿 (公印省略)

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 048(559)3660

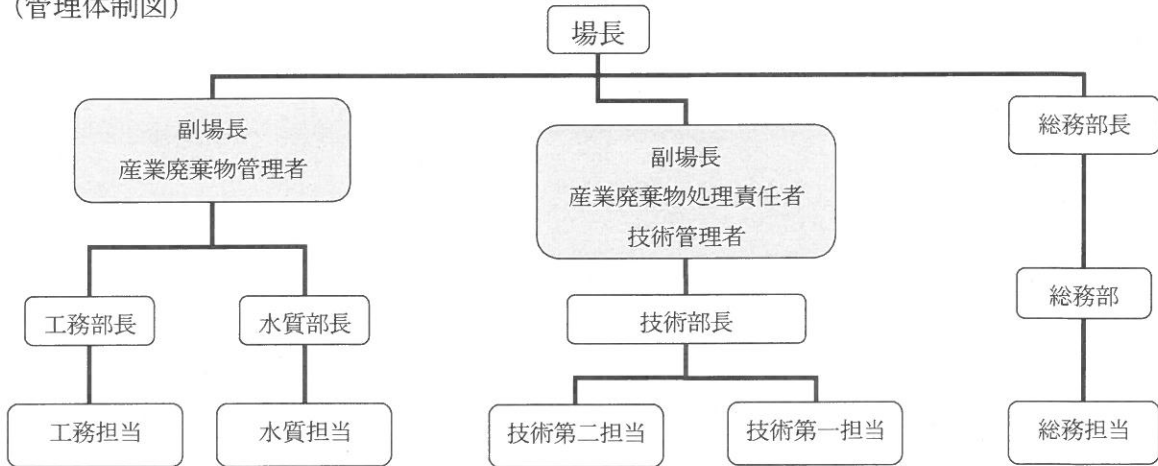
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	埼玉県行田浄水場
事業場の所在地	埼玉県行田市小針1632番地
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	上水道業(産業分類3611)
②事業の規模	125,354,000 m <sup>3</sup> /年(令和4年度送水量)
③従業員数	46人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	利根川より取水した河川水を浄水処理(凝集沈殿、急速濾過)し、上水を供給する。その過程で産出される汚泥は濃縮、脱水し、浄水発生土としてセメント原料への再利用、又は園芸用土等として有償売却している。(別添1行田浄水場平面図、別添2施設概要図、別添3汚泥処理施設図)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	—
	排出量	40,167 t	— t
	(これまでに実施した取組) 汚泥の発生量は主として、水源としている河川水のにごり（濁度）と水需要によって増減する。前者への対応として、水処理過程における凝集剤等の薬品注入量を適正に管理している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	—
	排出量	41,069 t	— t
	(今後実施する予定の取組) 現状と同じ取組を行う。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 処理工程において、汚泥以外は発生しない。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 処理工程において、汚泥以外は発生しない。

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（発生土）	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	36 t	t
	（これまでに実施した取組） 厚生労働省から通知のあった、平成23年6月16日付け健発0616第8号「放射性物質が検出された浄水発生土の当面の取り扱いに関する考え方について」及び平成23年12月28日付け健発1228第4号「放射性物質が検出された浄水発生土の当面の取り扱いに関する考え方の一部変更について」に基づき、放射性物質が高濃度のものについては、場内で適切に保管している。安全基準を満たしたのものについては、現状、園芸用土等への有償売却している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（発生土）	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	92 t	t
	（今後実施する予定の取組） 平成29年11月24日付け企局管第433号「浄水発生土に係る基本方針等の改定について」に基づき浄水発生土を園芸用土等として有償売却する。また、ホームページ等で売却を周知し、積極的に販売する。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	33,047 t	— t
（これまでに実施した取組） 汚泥の濃縮、脱水処理等で発生した濾液（減量分）は、原水として再利用した。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	33,280 t	— t
（今後実施する予定の取組） 現状と同じ取組を行う。			

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（一年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) —		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（発生土）	—
	全処理委託量	10,607 t	— t
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への処理委託量	10,607 t	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 令和4年度については、主にセメント原料への再利用を行った、浄水過程での発生土量よりも搬出した土量が多いが、これは令和元年度から繰り越した浄水発生土を搬出したためである。 再利用できなかった分については、行田浄水場内にて適切に保管し、令和5年度に順次セメント原料への再利用を行う予定。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（発生土）	—
	全処理委託量	7,500 t	— t
	優良認定処理業者への 処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への 処理委託量	7,500 t	— t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 園芸用土等への有償売却分以外は、昨年度に引き続きセメント原料への再利用を行う。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(補足資料)

産業廃棄物

### 1. 事業所概要

事業所名	埼玉県行田浄水場
住 所	埼玉県行田市小針1632番地
電 話	048-559-3660
ファックス	048-559-0927
メールアドレス	k5936603@pref.saitama.lg.jp
担 当 者	工務部工務担当

### 2. 産業廃棄物の処理に係る管理体制

産業廃棄物処理責任者	副場長（技術部）
技術管理者	副場長（技術部）
産業廃棄物管理者	副場長（水質部、工務部）

### 3. 添付資料

図面1……行田浄水場平面図

図面2……水処理施設概要図（水処理工程フロー）

図面3……汚泥処理施設概要図（廃棄物発生フロー）

表1……令和4年度汚泥処理実績結果一覧表及び  
令和5年度汚泥処理計画表

## 令和4年度汚泥処理実績一覧表

月別	原水		汚泥引抜き量				発生ケーキ		
	取水量 千m <sup>3</sup>	濁度 ppm	濃縮槽		重量		湿ケーキ トン	含水率 %	乾ケーキ トン
			m <sup>3</sup>	%	比重	トン			
4月	10,259	8.0	3,417	4.8	0.999	3,415	535	70.5	158
5月	10,442	14.0	3,251	5.8	0.999	3,247	558	61.2	177
6月	10,306	15.0	2,921	7.9	0.999	2,918	597	61.3	218
7月	10,901	26.0	3,024	9.5	0.999	3,022	679	56.6	282
8月	10,934	15.0	3,691	10.8	0.933	3,445	848	52.6	390
9月	10,403	12.0	5,231	8.6	0.940	4,915	988	54.1	441
10月	10,518	4.0	4,168	7.7	0.999	4,164	715	57.2	314
11月	10,502	4.0	4,182	6.0	1.000	4,180	625	60.7	242
12月	10,952	3.0	3,725	5.8	1.000	3,725	557	61.9	208
1月	10,901	3.0	1,064	5.2	0.999	1,063	156	66.3	54
2月	9,759	3.0	4,549	5.0	0.999	4,545	656	70.4	220
3月	10,552	6.0	1,529	4.2	1.000	1,529	205	72.7	65
計	126,429	—	40,752	—	—	40,167	7,120	—	2,766

① 排出量(汚泥引抜き量) 単位:トン 40,167 トン

② 自ら中間処理した後の残さ量(湿ケーキ) 単位:トン 7,120 トン

③ 自ら中間処理による減量(①-②) 単位:トン 33,047 トン

## 令和5年度汚泥処理計画表

年度	汚泥引抜き量		湿ケーキ(t)	濾液(t)
	汚泥量(m <sup>3</sup> )	汚泥重量(t)		
令和2年度	42,020	41,970	7,873	34,098
令和3年度	40,752	40,167	7,704	33,689
令和4年度	40,752	40,167	7,120	33,047
平均値	41,386	41,069	7,789	33,894

① 排出量(引抜き汚泥重量の平均値) 単位:トン 41,069 トン

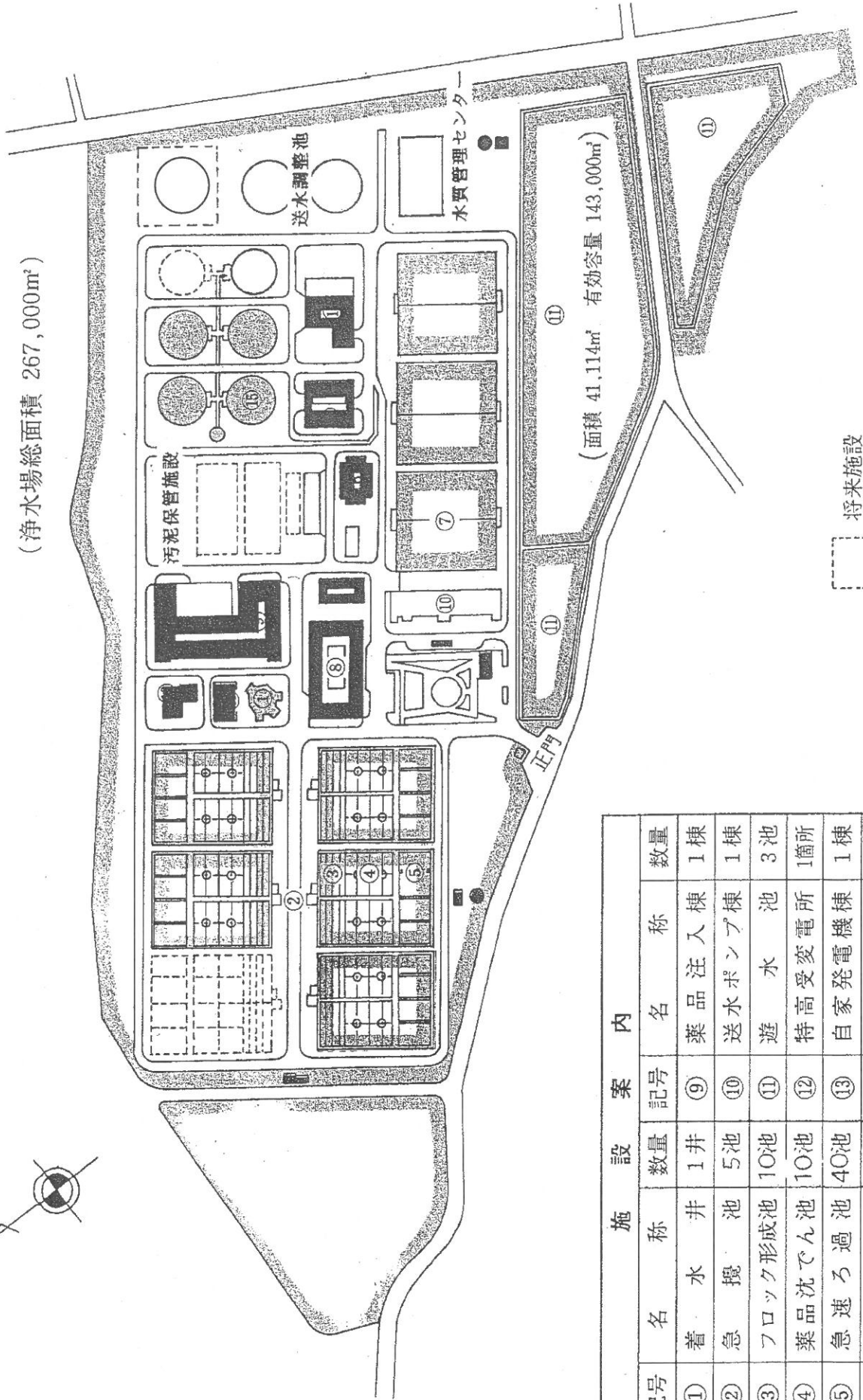
② 自ら再生利用した量(湿ケーキの平均値) 単位:トン 7,789 トン

③ 自ら中間処理による減量(①-②) 単位:トン 33,280 トン 原水として再処理



行田浄水場平面図

(浄水場総面積 267,000m<sup>2</sup>)

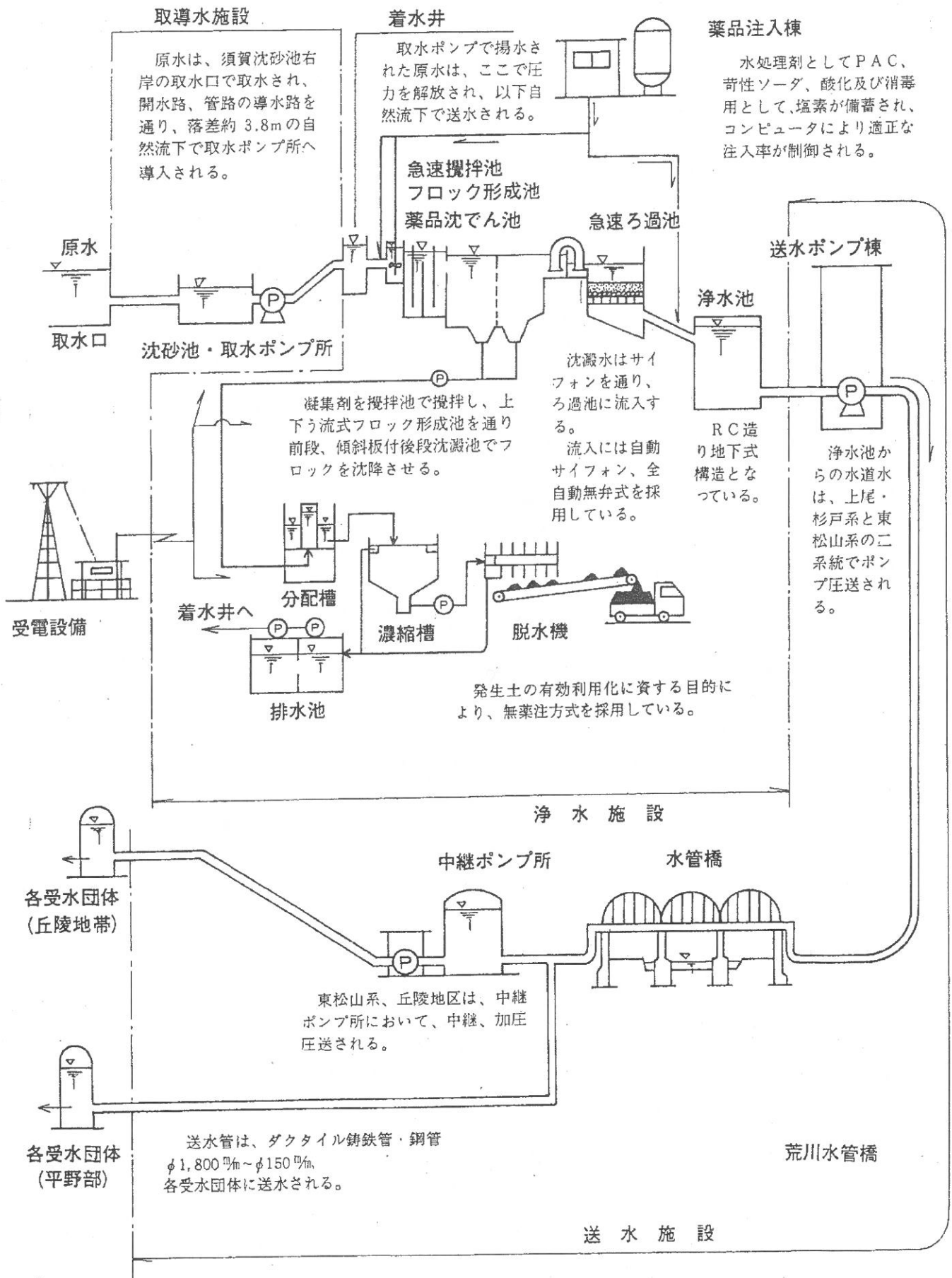


(面積 41,114m<sup>2</sup> 有効容量 143,000m<sup>3</sup>)

将来施設

施設案内					
記号	名称	数量	記号	名称	数量
①	着水井	1井	⑨	薬品注入棟	1棟
②	急攪池	5池	⑩	送水ポンプ棟	1棟
③	フロック形成池	10池	⑪	遊水池	3池
④	薬品沈でん池	10池	⑫	特高受変電所	1箇所
⑤	急速ろ過池	40池	⑬	自家発電機棟	1棟
⑥	塩素混和池	2池	⑭	排水池	2池
⑦	浄水池	3池	⑮	濃縮槽	5池
⑧	管理本館	1棟	⑯	脱水機	1棟

水処理施設概要図

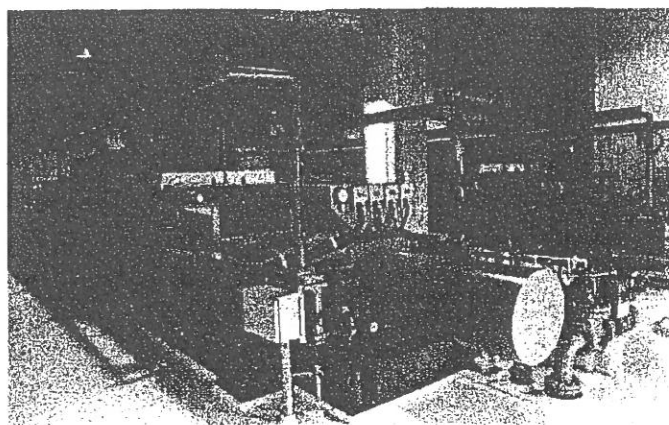
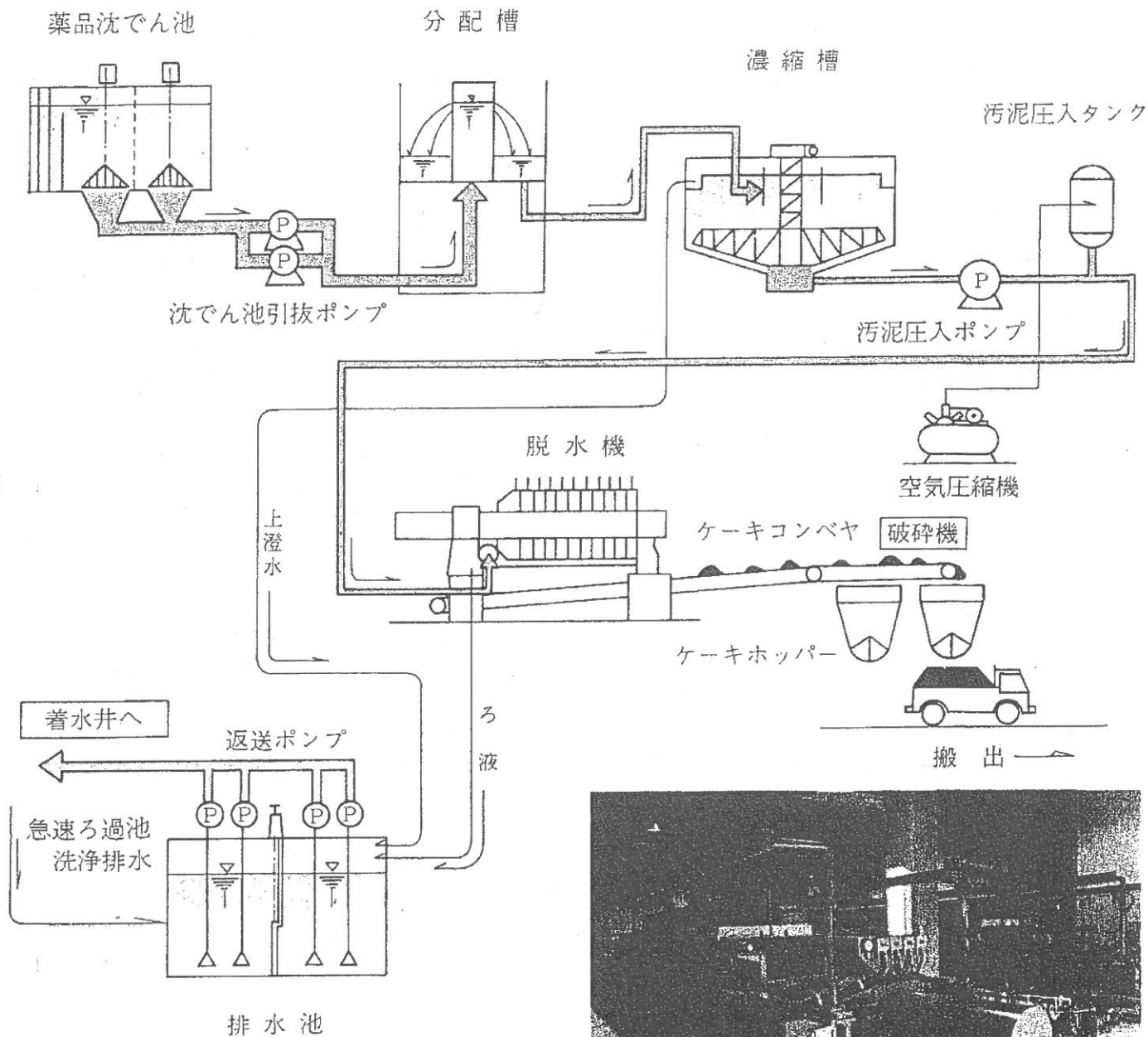


# 汚泥処理施設概要図

図面3

汚泥処理フロー

(廃棄物発生フロー)



脱水機

主 な 機 器 仕 様	
沈でん池引抜ポンプ	1.5m <sup>3</sup> /分×30m×30KW×4台
濃 縮 槽	φ30m×4.5m×3.7KW×5基
汚泥圧入ポンプ	65A×50A×37KW×6台
汚泥圧入タンク	φ2.1m×H3.3m×10m <sup>3</sup> ×5基
脱 水 機	DMフィルタ 800m <sup>2</sup> /台×5台
ケーキホッパー	37m <sup>3</sup> /基×10基
排水池返送ポンプ	12.56m <sup>3</sup> /分×20m×60KW×6台
破 碎 機	6.0t/h×2連×1000rpm×5台